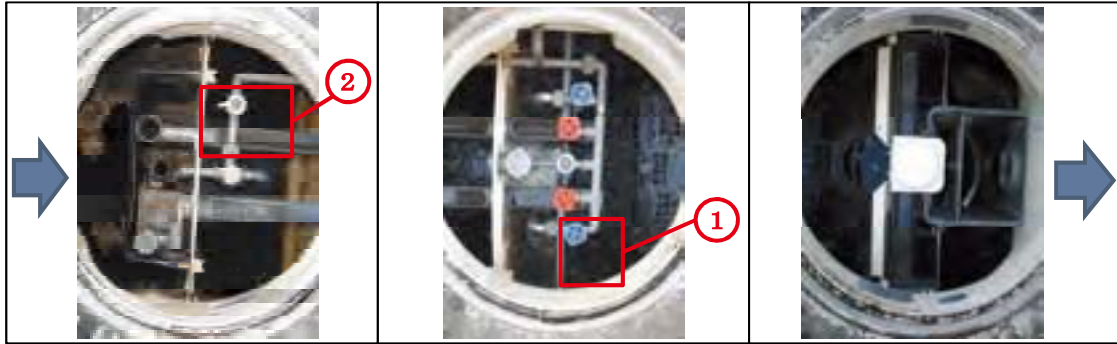


性能評価型(事例9) 空気逃がしバルブ取付けによる水質改善事例

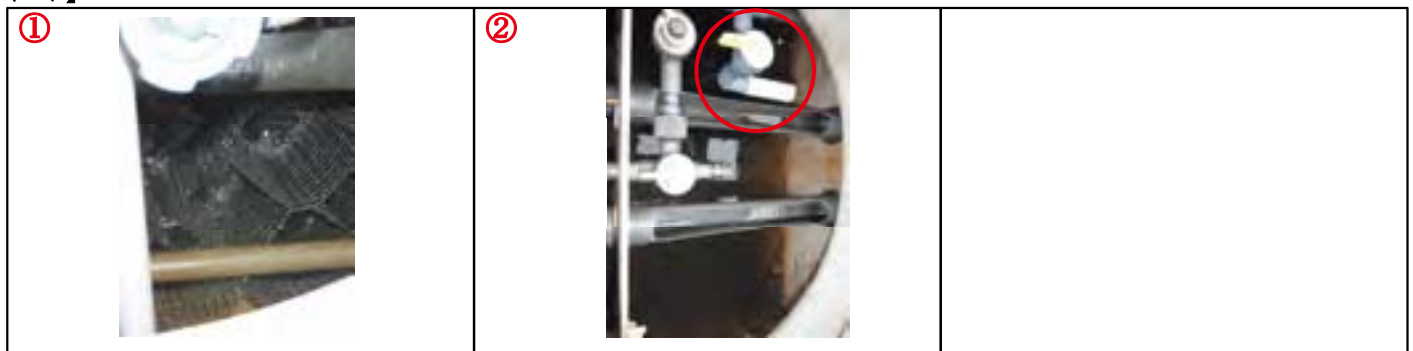
【槽内状況】



維持管理要領書より 10人槽 流量調整の移送水量(5.6~8.30/分) 循環水量(1.4~4.20/分)

事例番号	9		浄化槽メーカー	株式会社ビデン住設		
処理方式	性能評価型 BOD除去型		浄化槽型式	IBG-Y		
法定検査日	平成 24 年 12 月 6 日		人槽	10 人槽	使用人員	7 人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	1未満	0	—	1未満	透視度	16 度
堆積汚泥厚(cm)	17	—	2	8	DO	7.5 mg/ℓ
透視度(度)	7	—	14		pH	7.6
法定検査からの状況連絡・指示内容	槽内状況	2次処理槽内、接触材に生物膜の生成がない。 流量調整の移送水量4.0ℓ/分 槽内水位MWL以下 循環水量2.0ℓ/分 日平均汚水量1.38m ³ /日 採水時間10:00				
	対策	ばっ気過多の為、空気逃がしバルブの取付けを依頼する。				
保守点検からの措置返信内容	12月10日	空気逃がしバルブ取付。空気逃がしバルブ開度50% 循環水、ばっ気汚泥貯留槽の攪拌停止。 流量調整の移送水量2.0ℓ/分。			透視度	15 度
	12月25日	透視度回復する。 2次処理水の移送を行う。 (接触材の上部が水面より出る位置まで)			透視度	31 度
	2月19日	2月の保守点検まで透視度30度以上をキープする。 ポイント①流量調整の移送水量を抑え、槽内の水位を MWL以下にしない。 ②2次処理水をばっ気汚泥貯留槽へ移送する。 ③安定するまで循環水と貯留槽の攪拌を停止。			透視度	55 度
	保守点検				DO	3.8 mg/ℓ
					pH	7.0

【ポイント】



接触材に生物膜の生成なし。

空気逃がしバルブ取付け箇所。